

# 放射性物質から身を守るには

## 「除染」の方法

除染は、身体などに付着した放射性物質を除去したり減らしたりするために行う。放射性物質をほかの場所に広げたり、体内に取り込んだりしないよう、できる限り早く取り除くことが重要だ。

まず衣服に放射性物質が付着していないか測定して、汚染が確認されれば服を脱ぎ、服はポリ袋などに密封する。

体の表面に物質が付着していた場合には、タオルを使って生ぬるい湯で洗い流すのが


基本だという。せっけんと水でよく洗えば、皮膚表面の汚染はのぞける。肌を傷つけないよう、皮膚が赤くなるほどこすったり、爪を立てたりしてはいけない。






除染したら、放射性物質が取り除かれたかを測定して確認する。


被曝（ひばく）に詳しい長瀧重信・長崎大名誉教授は「避難所にいるような場合、不安になって自分の判断で衣服を全部脱いでしまう必要はない。検査で汚染が確認されてからで十分だ。冷静に対応してほしい」と話している。



The Asahi Shimbun

**原発事故が起こったら**  
原子力安全・保安院HPの「防災のしおり」から

**室内にとどまる指示が出たら** 

- ・ドアや窓を完全に閉める 
- ・換気扇などを止める 
- ・帰宅時に顔や手を洗う 
- ・食品にフタやラップをかける 
- ・防災行政無線などで正しい情報を 

**コンクリート屋内にとどまる**   
か、避難の指示が出たら

- ・マスクや外衣を着用し持ち物は最小限に 
- ・フード付きコートなど肌をさらさない服装 
- ・徒歩で集まり係員の指示に従う
- ・必要に応じてヨウ素剤を服用

# 電話いつ復旧 電源車、被災地へ

東日本大震災の被災地では、依然、電話回線が広範囲で不通のまま。電話会社は早期の復旧を目指し、移動電源車を被災地に送るなどの対策をしている。不通の原因の一つである停電が解消すれば、通話できる地域が広がるとみられる。

NTT東日本によると、13日午前6時現在、宮城県・岩手県を中心に加入電話87万9500回線が不通だ。光ファイ

バー回線を使った光IP電話も36万7200回線が不通。同社やNTT西日本は移動電源車を被災地のビルに送っており、13日中にも通話が可能になる回線が増える見込み。さらに、停電が解消すれば、通話が可能になる回線が増える。避難所に無料の特設公衆電話を設置し始めた。

NTT東は、被災で電話が故障したり、避難指示や避難勧告で電話が利用できなくな

ったりした契約者については基本料金を無料にする。被災で仮住居に移転する場合の電話工事も無料で行う。

携帯電話もつながりにくい。NTTドコモによると、13日午前8時現在、東北を中心に5120基地局が使用不能。復旧の見通しがたかない基地局も多い。ドコモは行政機関などに衛星携帯電話を貸し出したり、基地局の機能を備えた車を派遣したりしている。